

サッカーにおけるセンターバックとボランチの関係性についての研究

山田 真也 (競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース)

指導員 望月 聡

キーワード：縦の関係, パスサッカー, 技術

1. 緒言

現代サッカーにおいてパスサッカーが主流となっている中,司令塔の働きやゴールを決めるFWとMFの選手の存在は大きい,しかし今まで大きくとらえていなかったセンターバックの選手とボランチの選手との関係は,現代サッカーの試合の流れに大きな影響を与えるのではないかと考えられる.

過去と現代のセンターバックとボランチの役割に関しても変化している部分もある.尚且つ試合を優位に運んで行くうえでもこの二つのポジションの関係性は重要であり,またセンターバックは守備面において最後の砦でもあり,このポジションでプレイしている選手は大きな信頼を持たれていると言っても良いだろう.

そこで本研究はセンターバックとボランチの二つのポジションに着目し,ボールが自陣にある時間帯ボールを受ける状態のポジショニング,縦の関係性など,センターバックのコーチングがボランチに対してどのような影響を与えているのかを目的とするとする.

2. 研究方法

【研究対象】

本学の関西学生サッカー連盟に所属している選手.

【研究方法】

各チームのセンターバック 32人とボランチ 26人の選手にアンケート調査を行う.内容としては,コーチング能力,技術面,コミュニケーション,ストレスの四つの領域にわけて行い集計をとりデータを出す.

本学サッカー部 1チーム協力を要請し,11対

11のハーフコートのゲーム形式を行い4バックシステム時と3バックシステム時のフォーメーションを設定しセンターバックとボランチ,状況に応じての対応を撮影しゲームを終わると同時に映像を見せて検証する.

3. 結果と考察

アンケート調査の結果,センターバックは,コミュニケーションと技術の因子で高い数値が見られた.ボランチは,全体的に数値が高く特にコーチングとストレスの因子が高い数値を示した.

パスサッカーに行くにおいて,ボランチに今後求められる事は,パスを受ける前の位置,オフ・ザ・ボールの動き,センターバックが前線に上がった際のカバーリング,視野の広さ,状況判断においても一つのミスが失点や縦の関係が崩れる原因にもなる.

センターバックが今後求められる事はコーチングにおいてはビルドアップ時のリスクマネジメント,縦関係,ディフェンスラインの調整するコーチングが必要だ.足元の技術,正確なロングフィード,冷静な判断力が求められる.ボールを受ける際にも相手との距離取る動きや味方パスを出す選択肢を作る動きも必要となってくる.

引用・参考文献

林雅人 監修, 川本梅花 著 (2013)

サッカープロフェッショナル超分析

究極のシステム・マッチアップ観戦法

山本昌邦・戸塚啓 (2010)

世界基準サッカーの戦術と技術